

平成30年11月26日

白老町議会  
議長 山本 浩平 様

白老町議会議員 及川 保 印

派遣成果報告書

日時（期間）	自 平成30年11月12日（月） 至 平成30年11月16日（金） 4泊5日
目的地	鹿児島県大崎町、霧島市 宮崎県都城市、日南市
調査事項	ごみ対策、人口減少対策、財政対策及び タブレット議会について
視察の成果 （具体的に）	別紙のとおり報告いたします。

※ 必要の都度、写真その他を付加して、研修効果が現れる工夫をする。

## I. 鹿児島県大崎町：「定住促進施策」と「ゴミリサイクルシステム」

大崎町は人口が1万3千人ほどで、平成の大合併には参加しなかったが、このままでは「町が生き残れない」という危機感が全職員に芽生えた。

- (1) 大崎町は、鹿児島相互信用金庫と慶応義塾大学の3者による「大崎町リサイクル未来創生プログラム」の共同開発に着手した。
- (2) ぶり奨学プログラム（出世魚）は、地域で育った人材が「ふるさとに戻って活躍する」ことを支援するという制度であり、「子育ての不安などの軽減支援」や「Uターン人材の地域での活躍支援」をして「人口の流出の減少と出生数の増加」を目指す事業である。大崎町では、「大崎町リサイクル奨学パッケージ制度」として取り組まれている。

優遇制度は、①一般の教育ローンより優遇。②リサイクル奨学ローン等の返済額を助成などなど様々な優遇制度を設けており、地域の活性化も期待できる。

- (3) 民間事業者が建設した良質な賃貸住宅を大崎町が借り上げ、子育て世帯に対して安価で転貸し支援する「大崎町子育て支援定住促進住宅」は現地も視察したが、わが町でも一考の価値はある。（わが町の町有地の無償提供という支援策と若干似ている）
- (4) 大崎町はごみのリサイクル率が83.4%で、11年連続「リサイクル率日本一」のまちである。

冒頭記述のとおり、単独での「高額焼却炉の建設と、将来にわたる維持管理」は絶対無理と考え、現在のシステム構築に至った。「混ぜればゴミ、分ければ資源」という考えが町民一人ひとりに浸透していることが現地視察で理解できた。

ただ、畑作主体のまちと、酪農主体のわが町では事情が全然ちがうことから難しいと考える。

処理施設も何億も掛けたようなものではなく、民間事業者が粗末な工場でおこなっていたが、これで十分なのだとすることを認識した。

## II. 宮崎県都城市：「ふるさと納税の特徴と仕組み」

都城市は、人口が16万7千人と苫小牧市とほぼ同規模のまちである。

平成29年度のふるさと納税寄附金は52万3千件で、約74億7千万円であった。平成28年度は日本一になったが、さらに上回る寄附額となった。

- (1) 「肉と焼酎のふるさと・都城市」というキャッチフレーズで、お礼の特産品550種類もあり、このうち肉が301種類、焼酎が129種類と当初から方向性は変えていないとのことだった。

また1件あたりの寄附金額は1万円以内が全体の約80%を占め、2万円以内だと全体の91%を占めている。

- (2) 少し次元が違うなと感じたが、この事業に参入する企業などが参加する「運営協議会制度」を設置し進めていることが参考となる。

(3) 75億円も集めて市の様々な事業に充てているが、百万円単位の事業がほとんどで、何に充てているのかなと疑問に感じた。

### Ⅲ. 宮崎県日南市：「飫肥城下町のボランティアガイド」と「まち歩きマップ」

日南市は、人口が約5万人であり、今回は「飫肥城下町の観光ボランティアガイド」について、現地のボランティアガイドの案内と、観光協会の取り組みの説明を受けた。

- (1) 詳しいボランティアによる案内と説明を受けたが、高齢の方のボランティアであった。
- (2) やはり高齢化となり手不足が悩みであり、有償ボランティアの道も今後の検討課題とのことだった。
- (3) わが町の「仙台藩元陣屋資料館」における、ボランティアの方々とほとんど状況は変わらないと感じた。

### Ⅳ. 鹿児島県霧島市：「タブレット議会」

平成の大合併で旧国分市と周辺6町が一緒になり、新たに「霧島市」が誕生したまちである。

今回は「タブレットの議会運用」ということで視察研修したが、議会の効率化と膨大なペーパーによる運営からすれば確かに有効と思う。質問者が事務局と打ち合わせで資料の閲覧（市長含め出席者全員）できること。また、採決はタブレットで行うため、議長による「賛否確認」素早くできるなど、良い点もあるが「機械」であることから、いざという時に故障もあるとのことだった。

費用対効果も考慮しなければならないし、持ち出し厳禁で議事堂や委員会室だけの利用に限られるということも（セキュリティ）あって疑問符である。